

4

特集 腋臭症・多汗症の治療とケア

腋臭症治療のアルゴリズム

白川裕二¹⁾，細川 亙²⁾

1) 和歌山県立医科大学 美容外科寄附講座
2) 大阪みなと中央病院

腋臭症は、重篤な疾患ではないが、腋臭が周囲に影響するため、患者の精神的な問題になる可能性もある。最近、若者の臭いに対する意識が強い傾向にあるため、適切な診断、治療方法の選択が求められている。それらを行うためには、アポクリン腺とエクリン腺の違いに関する知識を踏まえて、治療目的を理解しなければならない。本稿では腋臭症の重症度、その原因、ガイドラインによる治療方法の選択について説明する。

はじめに

腋臭症は多くの人にとって悩みの種となる疾患であり、その治療方法についてはさまざまな研究が進められている。本稿では、腋臭症治療のアルゴリズムについて詳しく解説し、診断から治療選択、重症度による治療選択、原因による治療方法、そしてガイドラインに基づく治療方法についても紹介する。

診断から治療選択(図1)

本稿では、「腋臭症」と「多汗症」を区別し、それらの診断および治療選択を問診表や診察時の検査法を用いて行

う現状について述べる。

筆者らの施設においては、予診前に患者本人あるいは患者と保護者に問診(図2)し、予診時に看護師と確認を行っている。何歳ごろから意識していたか、誰かに指摘されたか、遺伝的要因の有無、下着や衣類の黄ばみ、耳垢の状態、多汗症の有無などについて聞き取りを行う。最近、患者の低年齢化が進み、いじめや登校拒否がみられるとともに、仕事や学校の関係で長期のダウンタイムが取れない患者が増えている¹⁾。そのため、患者の希望や仕事などを休める期間などを含めて聞き取る必要がある。

検査に関しては、①分析機器(質量ガスクロマトグラフ)を用いる方法、②ヒトによる官能検査法、③発汗検査と組み合わせる方法などが挙げられる¹⁾。筆者らの施設では、患者の腋窩にガーゼを挟んでもらい、臭いを確認するヒトによる官能検査法を用いて、重症度の分類(図3)を行っている。ここで注意すべきことは、腋臭の指摘をされたことがなく、ガーゼテストでも腋臭を確認できない症例は、

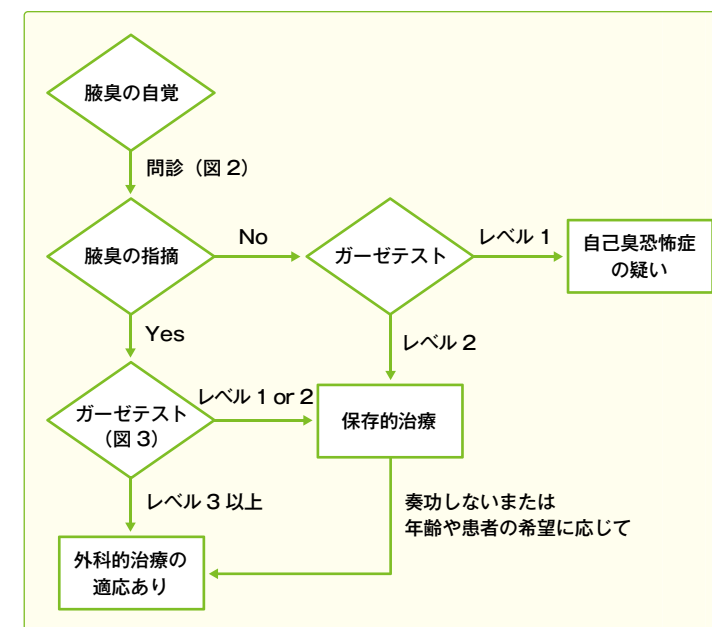


図1 診断から治療選択のアルゴリズム
問診、ガーゼテストを用いて治療選択を行っている。

- 何歳ごろから気になっていましたか
 - 臭いに関して、今まで他人から「臭う」と指摘されたことはありますか
 - 親や兄弟などで腋臭症の方はいらっしゃいますか
 - 白いシャツなど、脇の下部分が黄色く黄ばむことはありますか
 - 耳垢が湿っていて、多少臭うことはありますか
 - 全身汗かきですか
 - 腋毛は多い方ですか
 - 今までに何か治療を受けたことはありますか
- 女性の方
- 生理前になると、臭いが増すことはありますか

図2 問診

- レベル1 臭わない
- レベル2 ごくわずか
- レベル3 鼻を近づけるとわかる(軽度)
- レベル4 鼻を近づけなくてもわかる(中等度)
- レベル5 手に持っただけでわかる(重度)

図3 ガーゼテストによる重症度

自己臭恐怖症の疑いがあるため鑑別が重要になる。

筆者らは問診と検査結果にて総合的に診断を行い、治療選択を行っている。以前と比較すると治療方法のバリエーションが著しく増えその選択が難しくなっている。その一方で、腋臭症に対する患者、その家族の不安や悩み、腋臭を持つ人に対する周囲の感じ方に変化はほとんどないように思われる。我々は、患者の気持ちと提供する治療がベストマッチするように努力していかねばならない。

重症度による治療選択(表1)

治療方法としては、生活指導、消毒液、制汗剤などの保存的治療や汗腺除去を目的とする手術、特殊機器による汗腺破壊に大別される。筆者らは、ガーゼテストのレベルによって治療方法の選択を行っている。上項のように、問診による患者の背景によっては、通常レベル以上の治療を行う場合もある。

レベル1に関しては、腋臭症ではないにもかかわらず腋臭